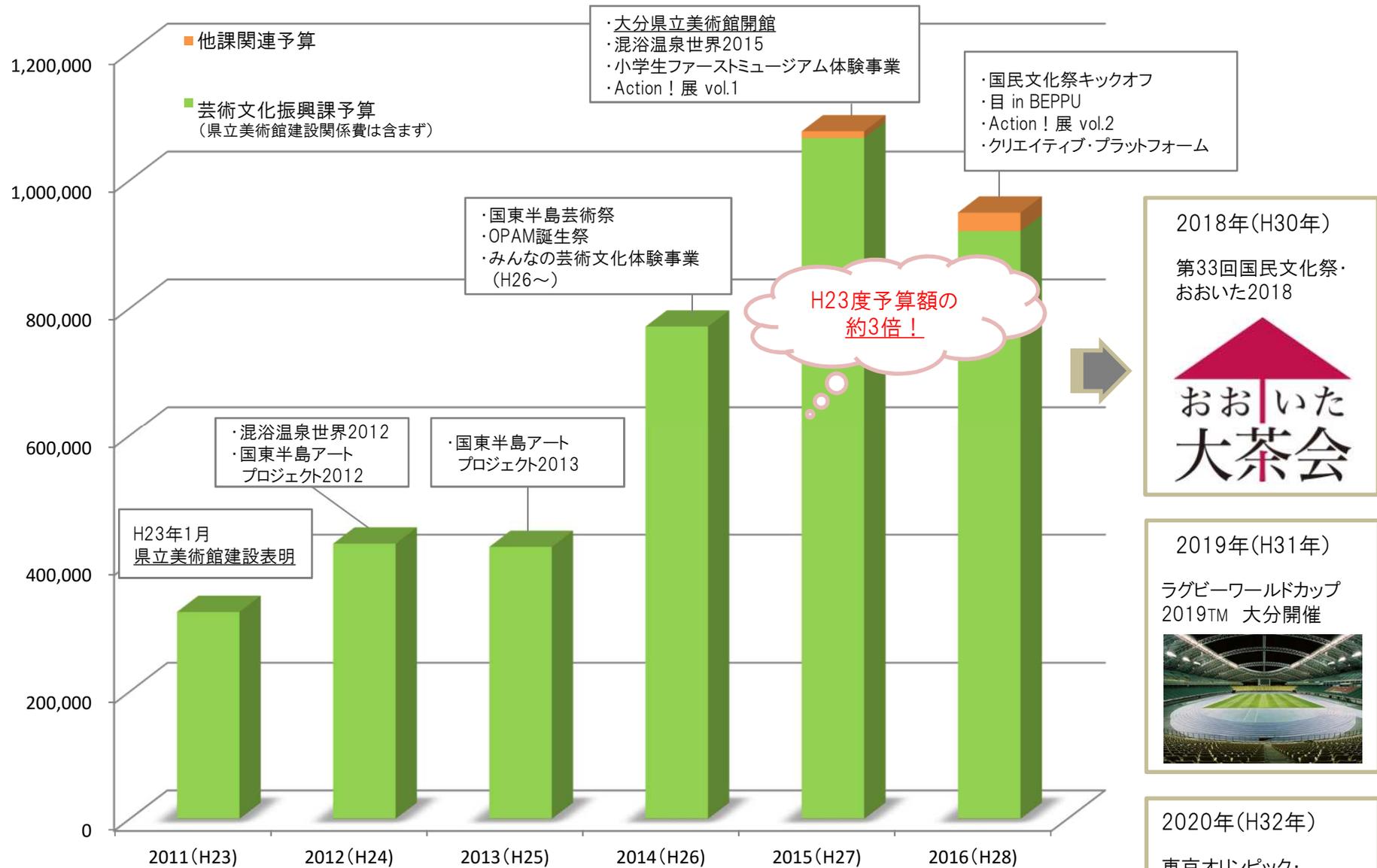


大分県では、長期総合計画「大分県安心・活力・発展プラン2015」に、「芸術文化による創造県おおいたの推進」を掲げ、文化芸術振興のみならず、様々な行政分野の課題解決に芸術文化の持つ創造性を活用し、創造的で活力あふれる地域社会の構築を目指しています



# 地方版アーツカウンシル機能が必要となった背景 <大分県の芸術文化振興予算の推移>



2018年(H30年)  
第33回国民文化祭・  
おおいた2018

2019年(H31年)  
ラグビーワールドカップ  
2019TM 大分開催

2020年(H32年)  
東京オリンピック・  
パラリンピック

【2011年以前から実施している主な取組】  
1998年～別府アルゲリッチ音楽祭  
1992年～大分アジア彫刻展  
(大分県出身・朝倉文夫顕彰)

2015年 JRデスティネーションキャンペーンとの相乗効果  
日本銀行大分支店のレポートでは、アートイベントとの連携が成功の一因として分析されている

- 
-

## 地方版アーツカウンシルの役割及び体制

### 【課題意識】

- ・ 現状、芸術文化関係予算は大きく伸び、全庁的な体制のもと、多様な主体との連携も進む
- ・ 国民文化祭が本県にて開催される2018年（平成30年）が、本県芸術文化行政のターニング・ポイント  
↓
- ・ 2018年以降も継続的できる持続可能な取組とは何か？  
↓
- ・ 『分析・評価の仕組み』が本県には必要
- ・ ビジョンを実現するために、取組が機能しているか、取組をスタートさせ、継続していくために必要な要素は何か、しっかりとした「分析」・「評価」を実施し、公表していく必要がある

・ 継続するために重要なものは何か？  
・ 助成制度があれば、継続できる？  
・ 助成制度の財源は？  
・ 支援組織があれば、取組は続く？  
……

### 【役割】

- ・ 大分県、大分県立芸術文化短期大学、（公財）大分県芸術文化スポーツ振興財団の3者により、「アーツ・コンソーシアム大分」を設置し、主に、「調査・研究」・「評価」・（「人材育成」）の役割を担う

【体制】 事務局は、大分県芸術文化スポーツ振興財団アーツラボラトリー室内に設置  
（常勤は、コーディネーター、アシスタントの2名。他に、非常勤アドバイザー2名）

コーディネーター：三浦宏樹氏（大分県芸術文化スポーツ振興財団 参与兼アーツラボラトリー室長）

- ・ 日本政策投資銀行大分事務所長などを経て2014年より現職
- ・ 「文化芸術創造クラスターの形成に向けて」等のレポート執筆

プロジェクトアドバイザー：山口祥平氏（大分県立芸術文化短期大学 講師）

- ・ 東京芸術大学先端芸術表現科非常勤講師、首都大学東京助教を経て、2016年4月より現職
- ・ 大地の芸術祭2015 十日町中心市街地アートプロジェクト・ディレクター

プロジェクトアドバイザー：山出淳也氏（特定非営利活動法人BEPPU PROJECT 代表理事）

※H29.1.27現在、年度末に報告書として整理・公表予定

### 【調査・研究】

#### (1) 芸術文化振興施策の評価手法

- ①評価理論の整理
- ②社会的インパクト評価/投資の潮流
- ③国内の主な芸術祭の評価手法
- ④県内における芸術祭などの評価事例

#### (2) 民間資金導入手法（クラウドファンディング・休眠預金）

- ①クラウドファンディング
- ②ふるさと納税
- ③休眠預金

#### (3) ラグビーワールドカップ2015イングランド大会における文化イベント

- ①ロンドン五輪、リオ五輪の文化プログラム
- ②ラグビーワールドカップ2015イングランド大会における文化イベント

### 【評価の試行】

#### (1) 目 In BEPPU、ベップ・アート・マンス（大分県別府市）

- バランス・スコア・カード、戦略マップの作成  
＜定量化、精緻化など＞

#### (2) Taketa Art Culture 2016「ニュータケタ」（大分県竹田市）

- アンケート調査・分析



目 In Beppu 「奥行き近く」



Taketa Art Culture2016 「風景への参道」